

# 2019年度 期末 決算説明資料

2020年5月8日

リンナイ株式会社

**Rinnai**

# 2019年度 連結決算要点

**売上高** : 3404.6億円 (前期比:△2.2% 計画比:△4.4%)

国内は微減収、海外は後半で復調も前半の減収や為替影響が響き減収

**営業利益** : 344.2億円 (前期比:+11.5% 計画比:+7.6%)

減収の中、国内の増益が大きく牽引。利益率は前期比で1.2pt改善 【利益率:10.1%】

**経常利益** : 356.7億円 (前期比:+7.1% 計画比:+4.9%)

営業利益増加に伴い増益 【利益率:10.5%】

親会社株主に帰属する

**当期純利益** : 215.6億円 (前期比:+5.3% 計画比:+2.7%)

経常利益増加に伴い増益 【利益率:6.3%】

※“計画比”は2019年5月9日発表の業績予想値に対する比率

- ・中期経営計画『**G-shift 2020**』中間年度は国内を中心に収益が改善
- ・売上高は計画未達も営業利益は最終年度の数値計画を前倒しで達成

# 2019年度の振り返り

## 国内

### 厳しい市場環境の中、独自商品や原価低減により収益改善が進む

- ▶ ガス機器業界は消費税引き上げに伴う駆け込み需要以降、一部商品では反動減の発生や価格競争が加速
- ▶ ガス衣類乾燥機を中心とした独自商品や中高級帯のビルトインコンロの伸長、また徹底した原価低減活動の結果、売上の伸びを上回る増益を達成
- ▶ 新型コロナウイルスの感染拡大により展示会の中止等、営業活動が縮小したものの、安定的な買替需要を背景に業績への影響は軽微に留まる

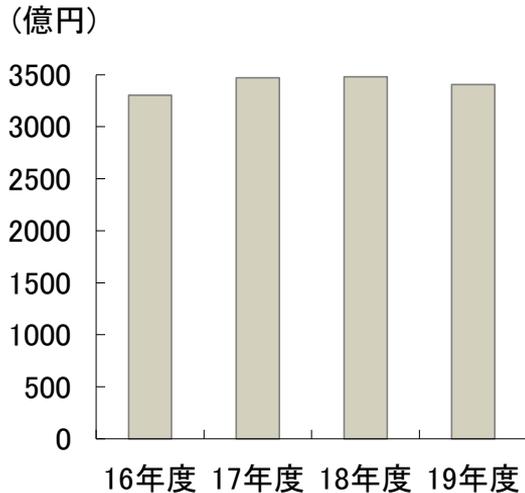
## 海外

### 一部の国や地域では踊り場に差し掛かるも、成長路線に変更無し

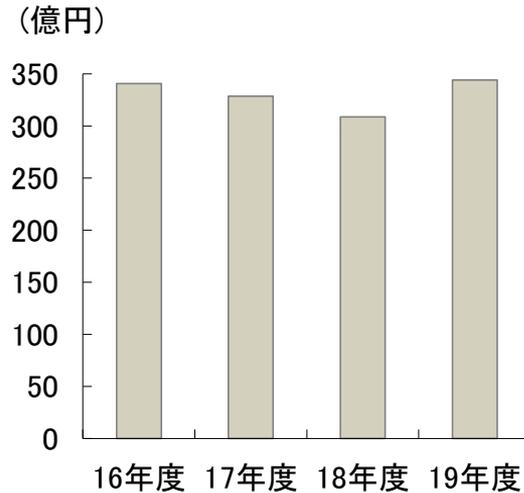
- ▶ アメリカ: タンクレス給湯器の販売が拡大。高効率タイプの割合が増加
- ▶ 中国: インターネットを中心に給湯器の販売が伸び、5月以降は回復傾向に転換
- ▶ 韓国・インドネシアは市場環境厳しく、オーストラリアは主力商品や電気機器が伸びるも現地通貨安が大きく響く

# 連結業績推移

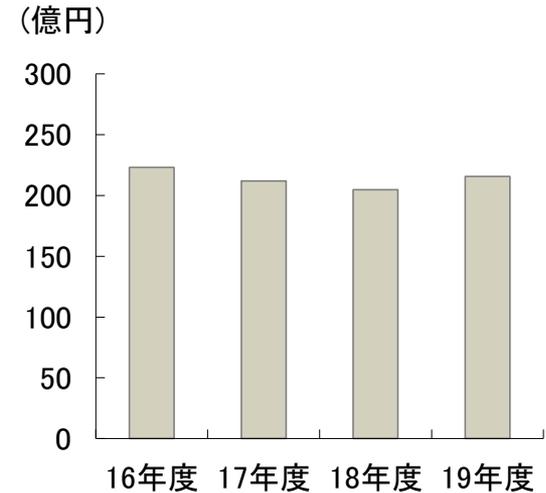
## 売上高



## 営業利益



## 親会社株主に帰属する 当期純利益



- ・単体の売上高は過去最高も海外の減収及び為替影響により、前比微減に留まる
- ・利益面は原価低減等により国内が大きく回復。海外の減益をカバー

# 2019年度 機器別売上高の内訳

[単位:億円]

機器別	2018年度		2019年度		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
給湯	2026.3	58.2%	1961.2	57.6%	△65.0	△3.2%
厨房	883.2	25.4%	861.9	25.3%	△21.2	△2.4%
空調	196.4	5.6%	189.0	5.6%	△7.4	△3.8%
業用	84.5	2.4%	85.5	2.5%	+1.0	+1.2%
その他	289.7	8.3%	306.8	9.0%	+17.1	+5.9%
合計	3480.2	100.0%	3404.6	100.0%	△75.6	△2.2%

# 2019年度 連結損益実績内訳

[単位:億円]	売上高	前期比 増減率	営業利益	前期比 増減率	営業利益率	前期比 増減率
連結	3404.6	△2.2%	344.2	+11.5%	10.1%	+1.2P



	売上高	前期比 増減率	営業利益	前期比 増減率	営業利益率	前期比 増減率
リンナイ	2078.0	+0.9%	173.5	+18.9%	8.4%	+1.3P
国内関連	1019.3	△16.6%	32.4	+18.2%	3.2%	+0.9P
海外関連	1714.0	△2.5%	122.4	△10.2%	7.1%	△0.6P
合計	4811.5	△4.5%	328.5	+6.0%	6.8%	+0.7P

※海外関連のうち、韓国の早期退職金支払いによる営業減益額は△8.4億円。(連結決算では特別損失に計上) ©Rinnai Corporation

# リンナイ単体 2019年度実績

## 業績

2019年度売上高 2078.0億円 (前比+0.9%)

- ▶ガス衣類乾燥機やビルトインコンロが好調
- ▶徹底した原価低減活動が営業利益増加に貢献

(億円)	2018年度	2019年度	前期比増減率
売上高	2060.1	2078.0	+0.9%
営業利益	146.0	173.5	+18.9%



ビルトインコンロ

(販売台数:国内)



ガス衣類乾燥機

前期比増減率

給湯暖房機

+1.5%

(うちハイブリッド給湯器)

(△9.6%)

ふろ給湯器

△2.9%

ビルトインコンロ

+0.4%

ガス衣類乾燥機

+36.9%

# リンナイ単体

## ビルトインコンロや衣類乾燥機が大きく伸長し、全体を牽引

- ▶ 厨房機器は一部反動減が見られるものの、中高級帯のビルトインコンロが伸長
- ▶ 衣類乾燥機は台数前比**36.9%増**、金額前比**46.2%増**(ともに国内)と好調

新商品



DELICIA (3V乾電池タイプ)

- ・2019/8発売
- ・「ザ・ココット」で無水調理や低温調理が可能に



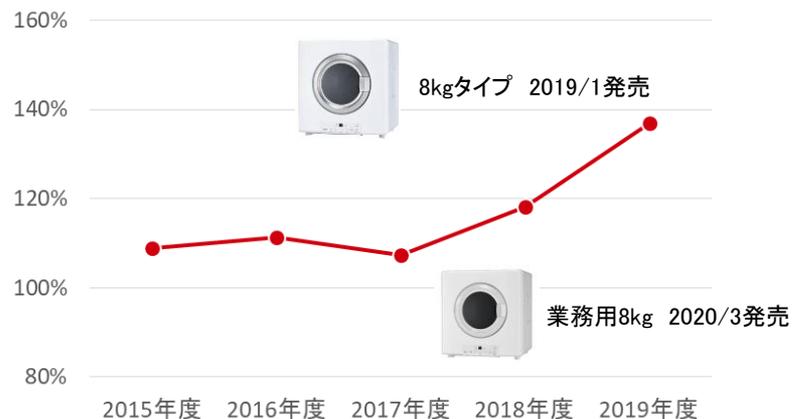
The Cocotte



LISSE



Mytone



衣類乾燥機 台数前比(国内)

# リンナイアメリカ 2019年度実績

業績

1974年設立

2019年度売上高 331.3億円 (前比+9.0%)

過去最高

タンクレス給湯器販売台数は30万台を超え、大きく飛躍

- ▶高効率タイプの販売台数が伸長(前比+16.2%)
- ▶販売増と経費削減で大幅増益(前比+36.3%)



**SENSEI™**

高効率ガス給湯器  
SENSEIシリーズ

(億円)	2018年度	2019年度	前期比増減率	現地通貨 増減率
売上高	303.9	331.3	+9.0%	+10.2%
営業利益	14.9	20.3	+36.3%	+37.8%

(販売台数)	前期比増減率
タンクレス給湯器	+8.5%
内)高効率タイプ	+16.2%

# リンナイアメリカ 2019年度実績

## ●タンクレスガス給湯器の認知と販売拡大

4月～10月にかけてタンクレス給湯器を搭載した大型バン7台が北米全土をキャラバンする「Try Rinnai Tour」を展開

卸業者や設置業者(約1万人)を動員、様々な設置環境に対応可能なSENSEIシリーズの認知が向上し、販売台数が大幅に増加



大型バンに給湯器を搭載し  
タンクレス給湯器をPR

## ●日本製コンビネーションボイラー発売(2019年7月)

リンナイの強み(流体制御、熱利用技術)を生かし、給湯性能を高めたコンビネーションボイラーを投入

- 【主な特徴】
1. 暖房使用時における給湯同時運転
  2. 細やかな給湯温度コントロール



コンビネーションボイラー  
Iシリーズ

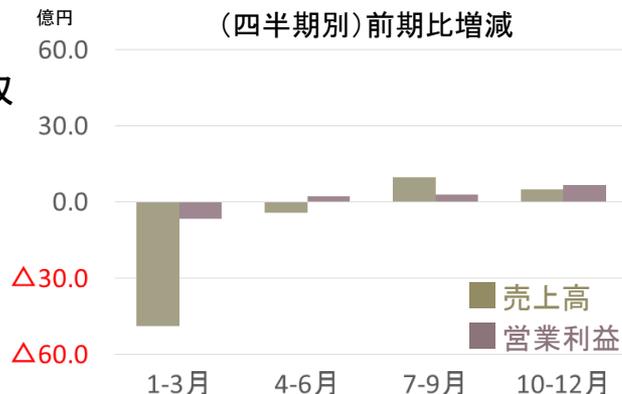
# 上海林内 2019年度実績

## 業績

1993年設立

### 第1四半期の減収が響くも、5月以降は回復傾向

- ▶ 第1四半期は前年度の農村部へのボイラー特需による反動等で減収
- ▶ 給湯器は5月以降増加に転じ、通年で前年を上回る
- ▶ **インターネット販売**は金額ベースで**前比18%増**と大幅に伸びる
- ▶ 売上高の回復に伴い、営業利益も増益基調に転換



(億円)	2018年度	2019年度	前期比増減率	現地通貨 増減率
売上高	475.1	436.2	△8.2%	△3.3%
営業利益	50.8	55.9	+9.9%	+15.8%

(販売台数)	前期比増減率
給湯器	+1.3%
コンロ	△0.6%
レンジフード	+17.5%
ボイラー	△23.4%

# 上海林内 2019年度実績

## ●インターネット販売の強化

中国の給湯器市場は実店舗での販売が伸び悩む中、ローカルメーカーを中心にインターネット販売が伸長

販売イベント(6/18、11/11等)への販促強化や3級・4級都市開拓に伴う認知度向上、口コミ等により上海林内でもインターネット販売が成長。

## ●高級/超高級コンロのラインナップ強化

ブランド価値向上のための旗艦商品

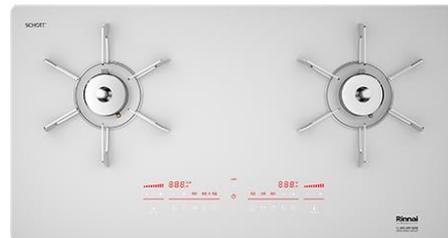
- センサーを搭載し、安全性・利便性を向上

- ガラス天板やタッチ操作による上質なガスコンロ

⇒TV番組等のメディア露出や実機体験を通じ、PR強化



売上に占めるインターネット販売の構成比は前年に比べ、約5pt上昇



超高級コンロは全面タッチ操作

# リンナイオーストラリア 2019年度実績

業績

1971年設立

為替影響による減収、仕入コストの増加により減益となるも、非ガス商材である電気タンク式給湯器やルームエアコンの販売が好調に推移し、現地通貨ベースでは増収減益



タンクレス給湯器



電気タンク式給湯器

(億円)	2018年度	2019年度	前期比増減率	現地通貨増減率
売上高	250.3	237.6	△5.1%	+3.0%
営業利益	17.2	5.9	△65.5%	△62.6%

(販売台数)

	前期比増減率
タンクレス給湯器	+0.9%
電気タンク式給湯器	+8.8%
ダクト式冷暖房システム	+0.2%
ルームエアコン	+59.6%

# その他 海外関連会社 2019年度実績

リンナイ코리아

業績

1974年設立

景気低迷における市場縮小、競争激化で減収・営業損失

※早期退職金支払い(△8.4億円)を営業費用に計上(連結決算では特別損失に計上)

(億円)	2018年度	2019年度	前期比増減率	現地通貨 増減率	(販売台数)	前期比増減率
売上高	328.0	275.3	△16.1%	△10.4%	ボイラー	△11.1%
営業利益	1.0	△13.8	-	-	ガスコンロ	△21.0%
					電気コンロ	△10.5%

リンナイインドネシア

業績

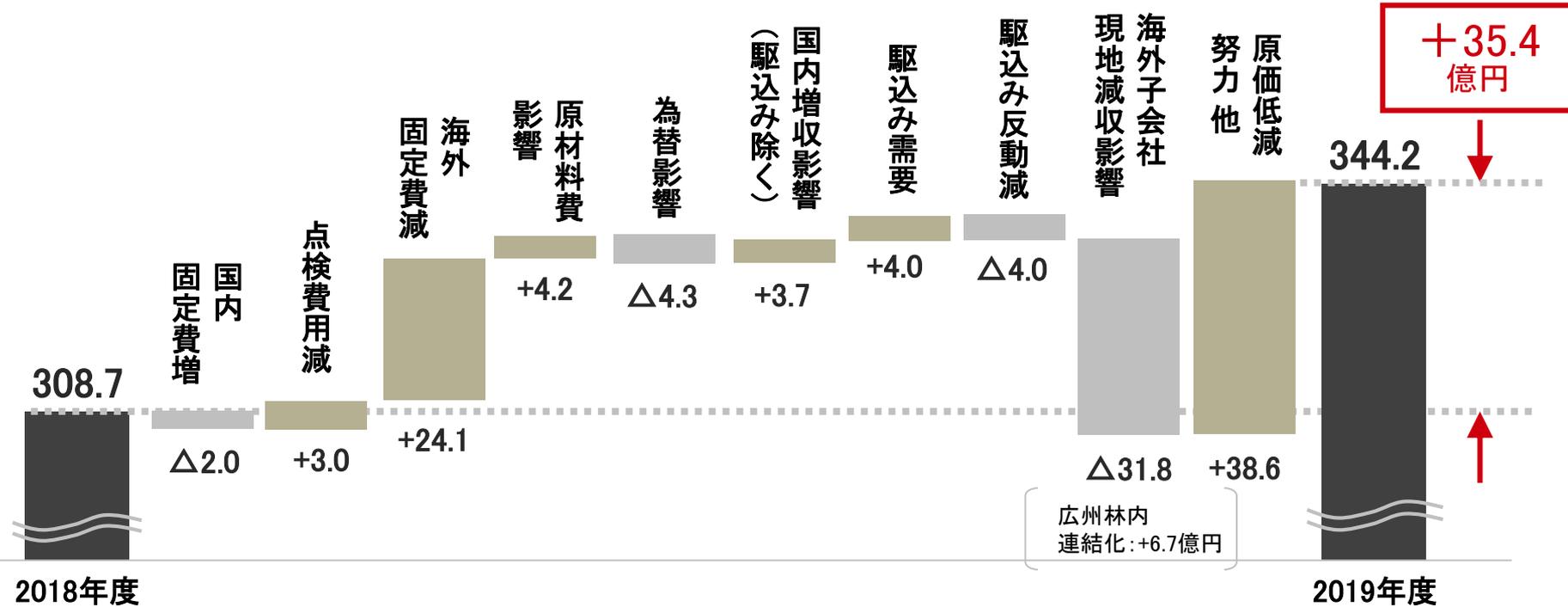
1988年設立

高価格帯のビルトインコンロの販売は回復傾向にあるものの、  
主力商品であるテーブルコンロ市場の動きに力強さがなく減収減益

(億円)	2018年度	2019年度	前期比増減率	現地通貨 増減率	(販売台数)	前期比増減率
売上高	128.4	112.6	△12.3%	△11.6%	テーブルコンロ	△17.5%
営業利益	18.2	16.0	△12.5%	△11.8%	ビルトインコンロ	△0.8%

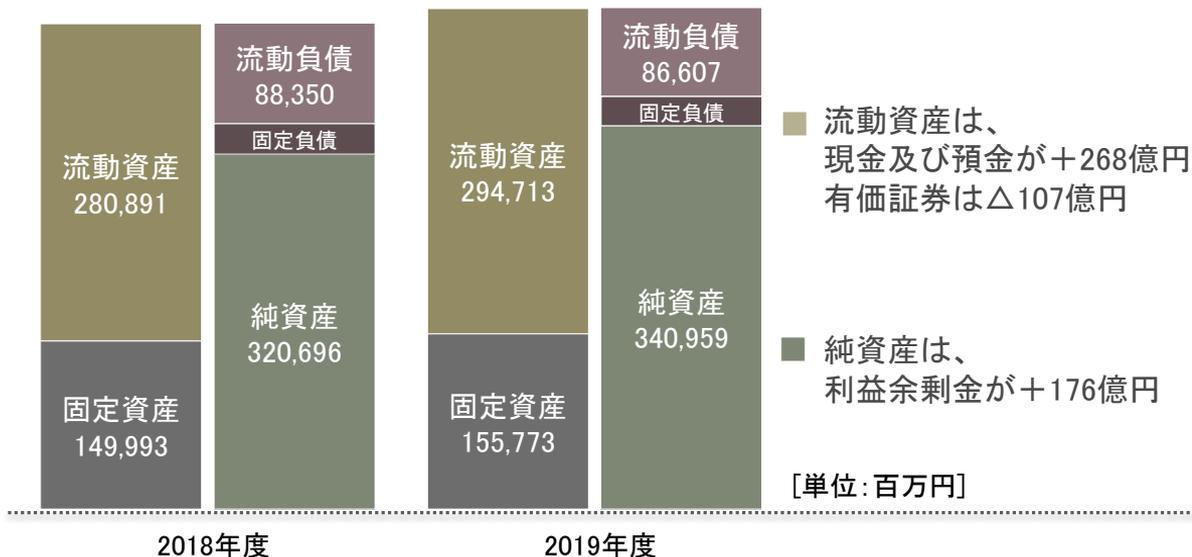
# 2019年度 連結営業利益分析

[単位:億円]



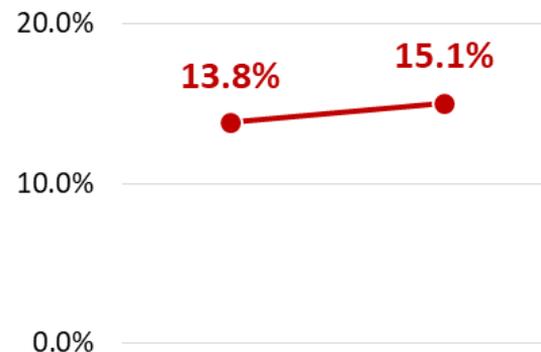
# 2019年度 連結B/S、ROIC

- ・流動資産は、現金及び預金が増加したこと等により+138億円、
- ・負債は、買掛金の減少等により△6億円、純資産は+202億円
- ・連結ROICは15.1%と前年度に比べ1.2pt改善



## 連結ROIC

ROIC = NOPLAT ÷ 投下資本  
 ※投下資本は当期・前期との平均



2018年度 2019年度

# ESG指標を重視した取り組み

## ◆CSR重要課題(マテリアリティ)への取り組み

### 環境への取り組み

重要課題: エネルギー消費量、CO<sub>2</sub>排出量  
主な目標: 商品使用時におけるCO<sub>2</sub>削減貢献量



2019年度CO<sub>2</sub>削減貢献量  
260.1万トン(前比+2.4%)



環境人づくり企業大賞2019「優秀賞」(主催:環境省)を**2年連続受賞**(環境保全、社長表彰制度などが評価)

### 安全・安心への取り組み

重要課題: 消費者安全、品質向上  
主な目標: リコール社告にいたる不具合の発生防止

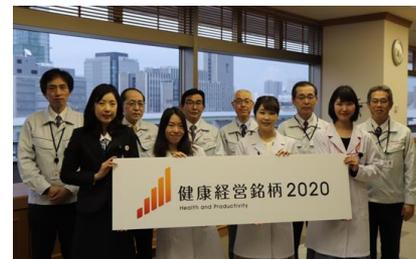


2019年度結果  
発生件数0件



## ◆健康経営銘柄2020への選定(4回目)

健康保険組合、従業員組合、会社の三位一体で、従業員の健康づくりの活動を推進し、4回目となる健康経営銘柄(主催:経済産業省、東京証券取引所)に選定



本資料に掲載されております業績予想や将来予想は、現時点において入手可能な情報に基づき当社が判断して予想したものであり、実際の業績は今後様々な要因の変化により予想とは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。